

## 総合計画に関する市民アンケート 集計結果

### 1 アンケートの実施概要

#### (1) 実施目的

- ・ 「第5次宇都宮市総合計画」の市民満足指標の設定にあたり、市民の実感（満足度）の現状値を把握するとともに、市民の意向を的確に把握し、計画策定に活用していくことを目的とし、アンケート調査を実施した。

#### (2) 調査内容

- ・ 分野別計画の基本施策を単位として、市民の実感について「そう思う」、「どちらかというと思う」、「どちらかというと思わない」、「そう思わない」の4段階で調査し、そのうち「そう思う」、「どちらかというと思う」の回答率の計を「満足度が高い」ものとした。

#### (3) 対象者

- ・ 満20歳以上80歳未満の市民3,900名（無作為抽出）

#### (4) 実施期間

- ・ 平成19年12月4日（火）～12月19日（水）

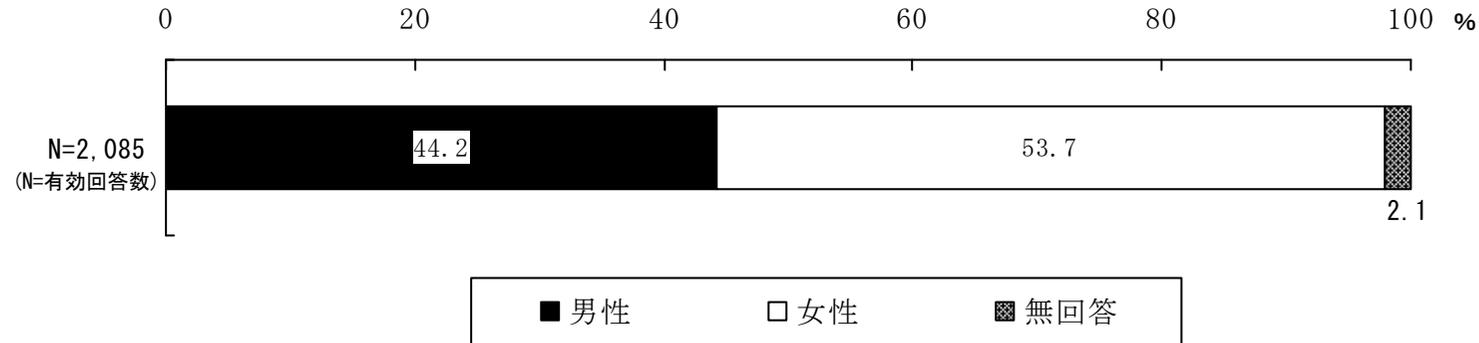
#### (5) 有効回答数

- ・ 2,085（回答率53.5%）

## 2 回答者の属性

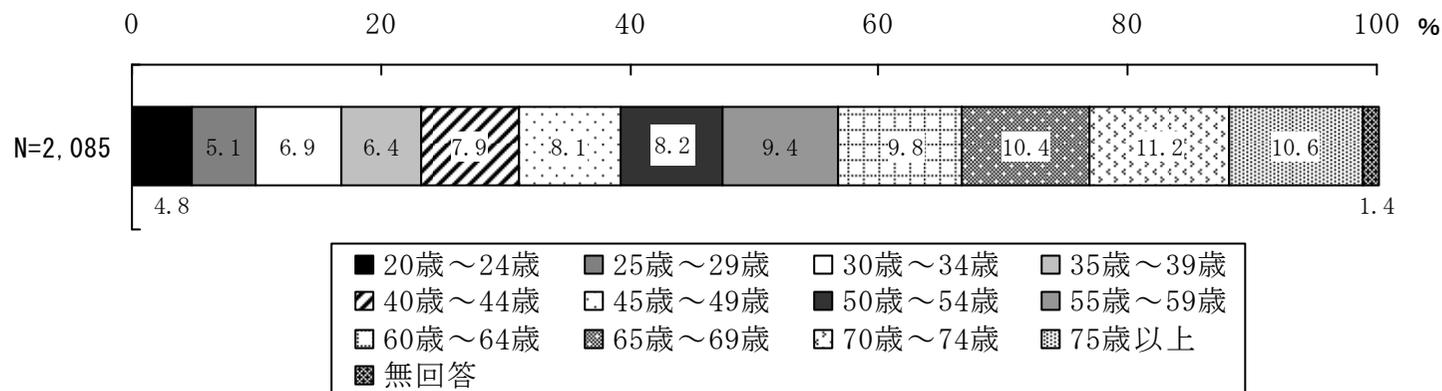
### (1) 性別

- 回答者を性別で見ると、53.7%と女性が若干多い。



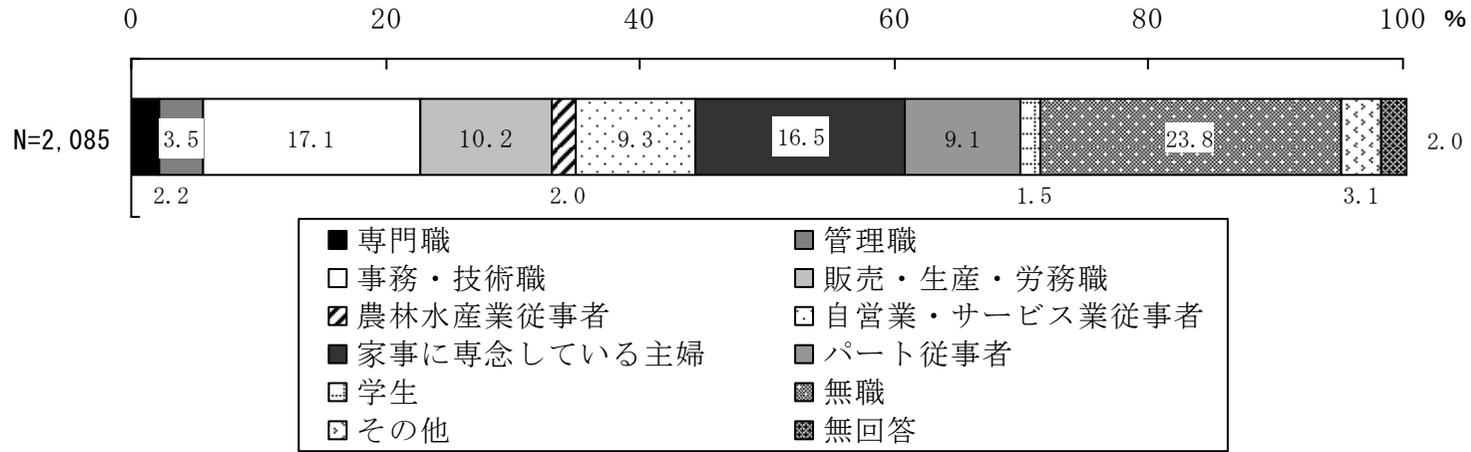
### (2) 年齢

- 年齢別で見ると、おおむね全ての世代からまんべんなく回答を得ている。ただし、20代及び30代の回答数が他の世代と比べて少ない点は留意が必要である。



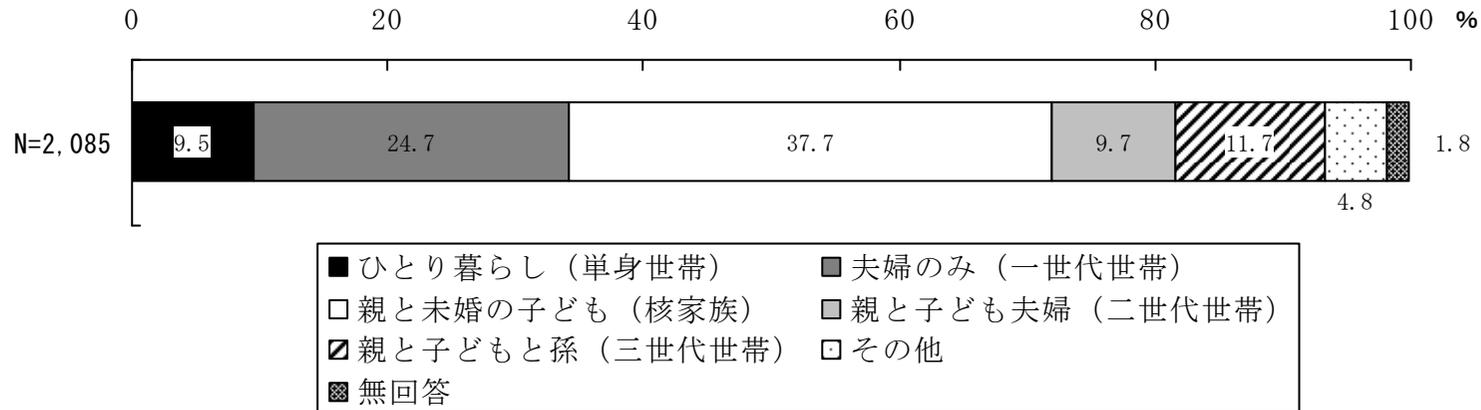
### (3) 職業

- 回答者の職業は、無職、事務・技術職、主婦、販売・生産・労務職、自営業・サービス業従事者の順に多い。



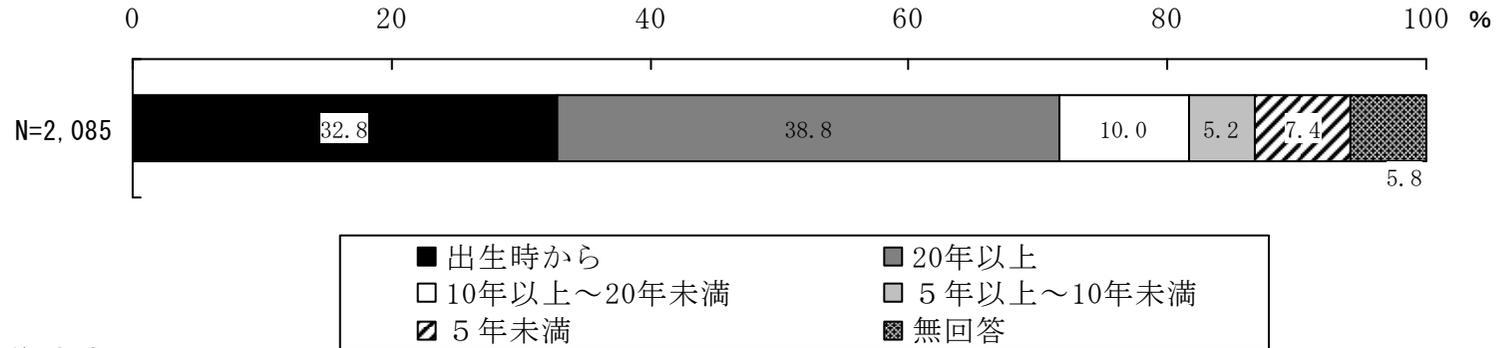
### (4) 家族構成

- 家族構成は、核家族が回答者の約4割を占めている。



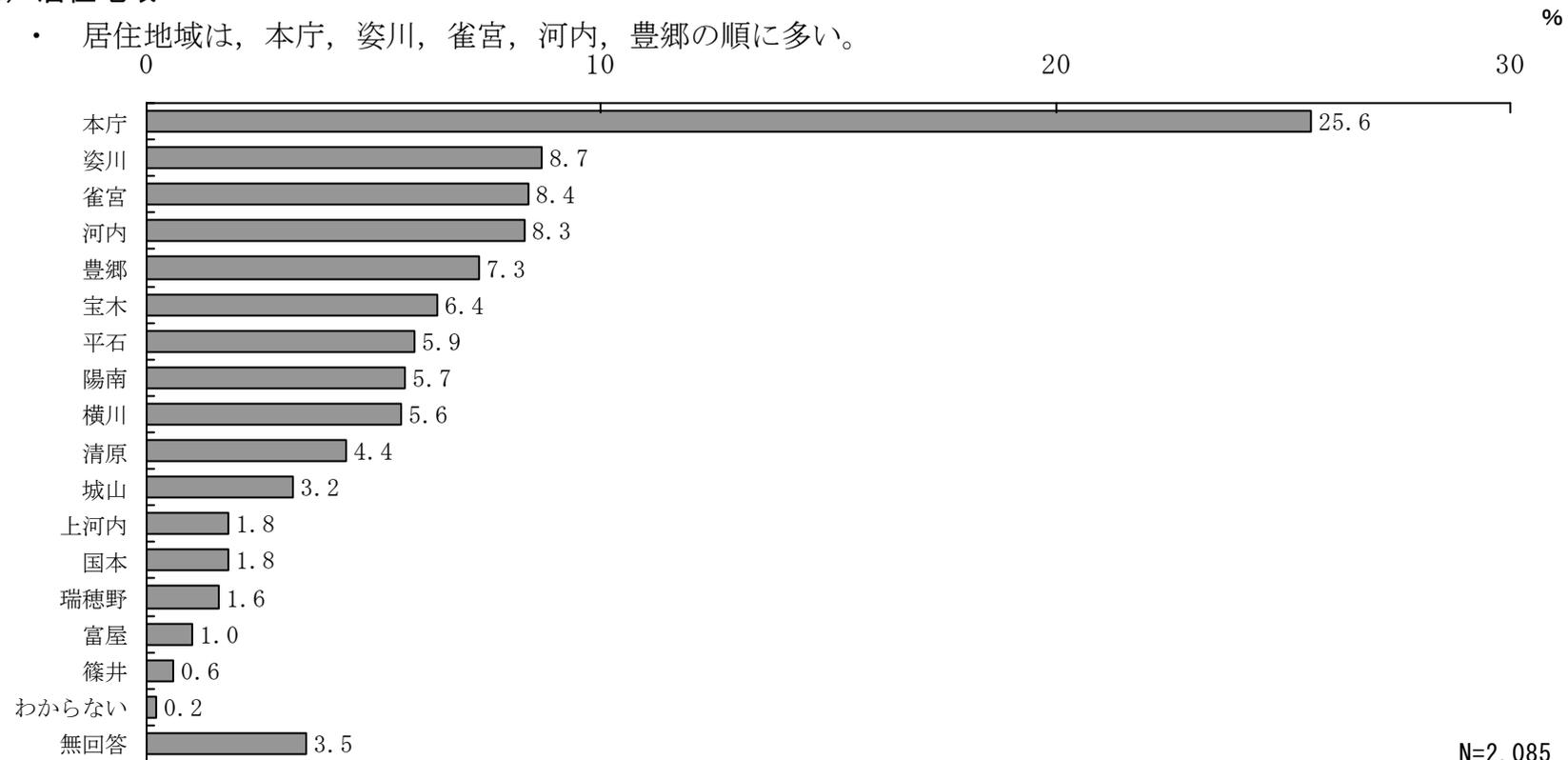
(5) 居住歴

- ・ 居住歴は、10年以上の回答者が全体の8割を超えている。



(6) 居住地域

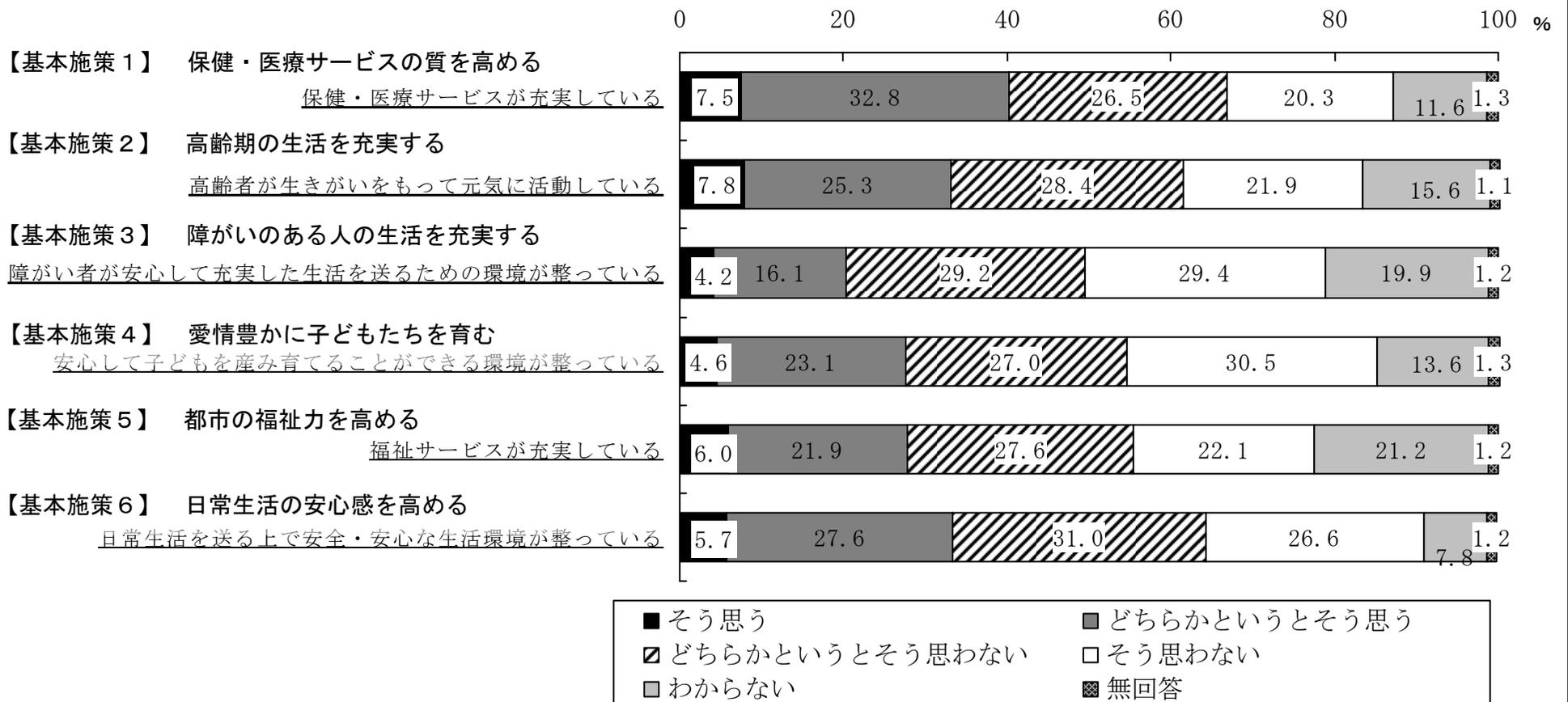
- ・ 居住地域は、本庁、姿川、雀宮、河内、豊郷の順に多い。



### 3 回答結果の概要

#### (1) 健康・福祉・安心に関する分野について

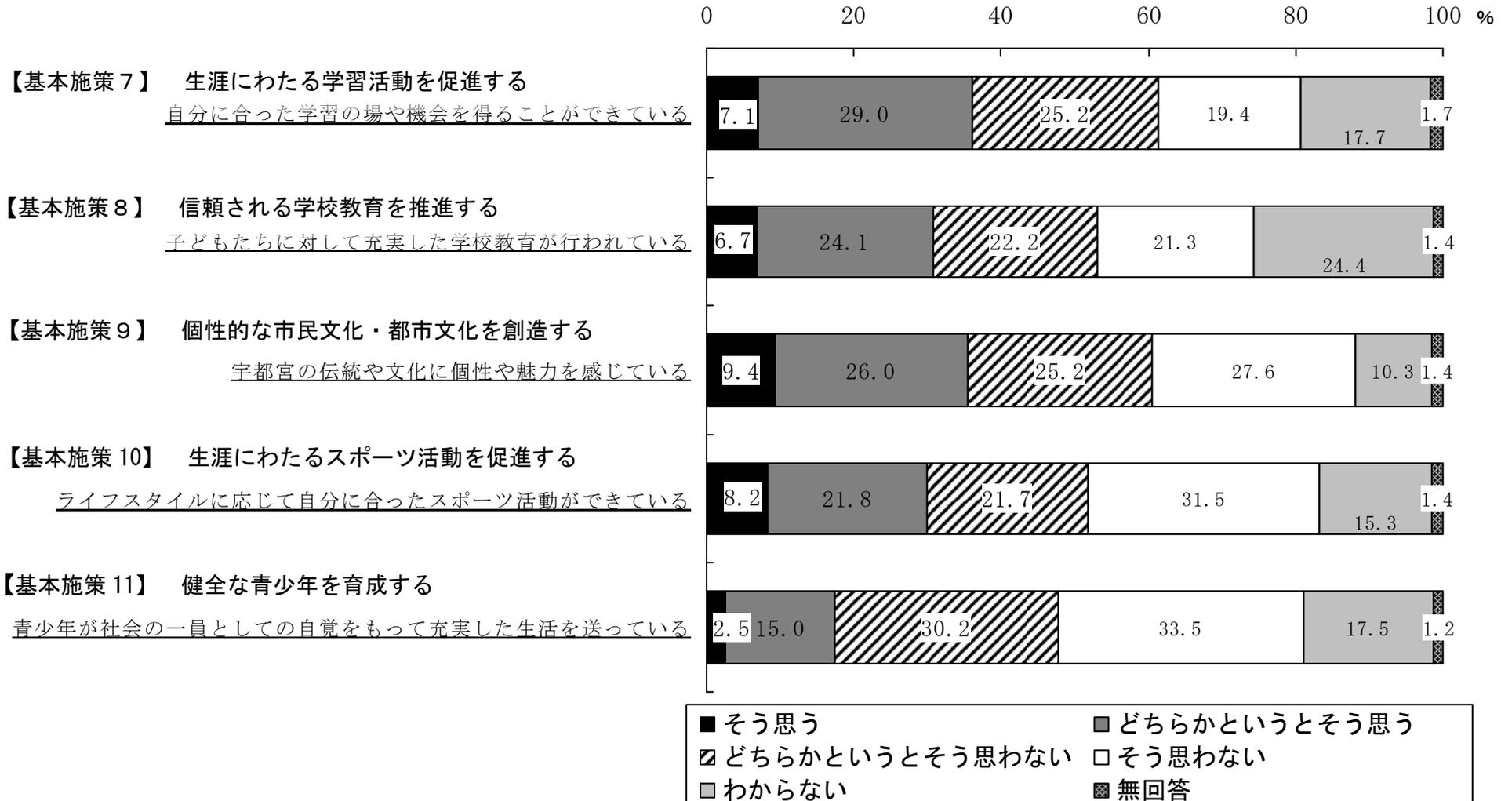
- ◆ 健康・福祉・安心の分野については、まちづくりの重点課題である『高齢者の生活の質の向上』、『安全で安心な生活環境の創出』にそれぞれ関連する“高齢期の生活を充実する”、“日常生活の安心感を高める”の各指標で、「そう思う」、「どちらかというと思う」とする回答率の計が30%強となっている。一方、同じく重点課題である『子育て支援の充実』に関連する“愛情豊かに子どもたちを育む”の指標では、27.7%と若干低くなっている。なお、“障がいのある人の生活を充実する”の指標では、20.3%とさらに低くなっている。



(2) 教育・学習・文化に関する分野について

◆ 教育・学習・文化の分野については、まちづくりの重点課題である『次代を築く人材育成』に関連する“生涯にわたる学習活動を促進する”の指標で、「そう思う」、「どちらかというと思う」とする回答率の計が36.1%となっている。また、同じく重点課題である『都市の個性の創出と発信』に関連する“個性的な市民文化・都市文化を創造する”の指標では、35.4%となっている。

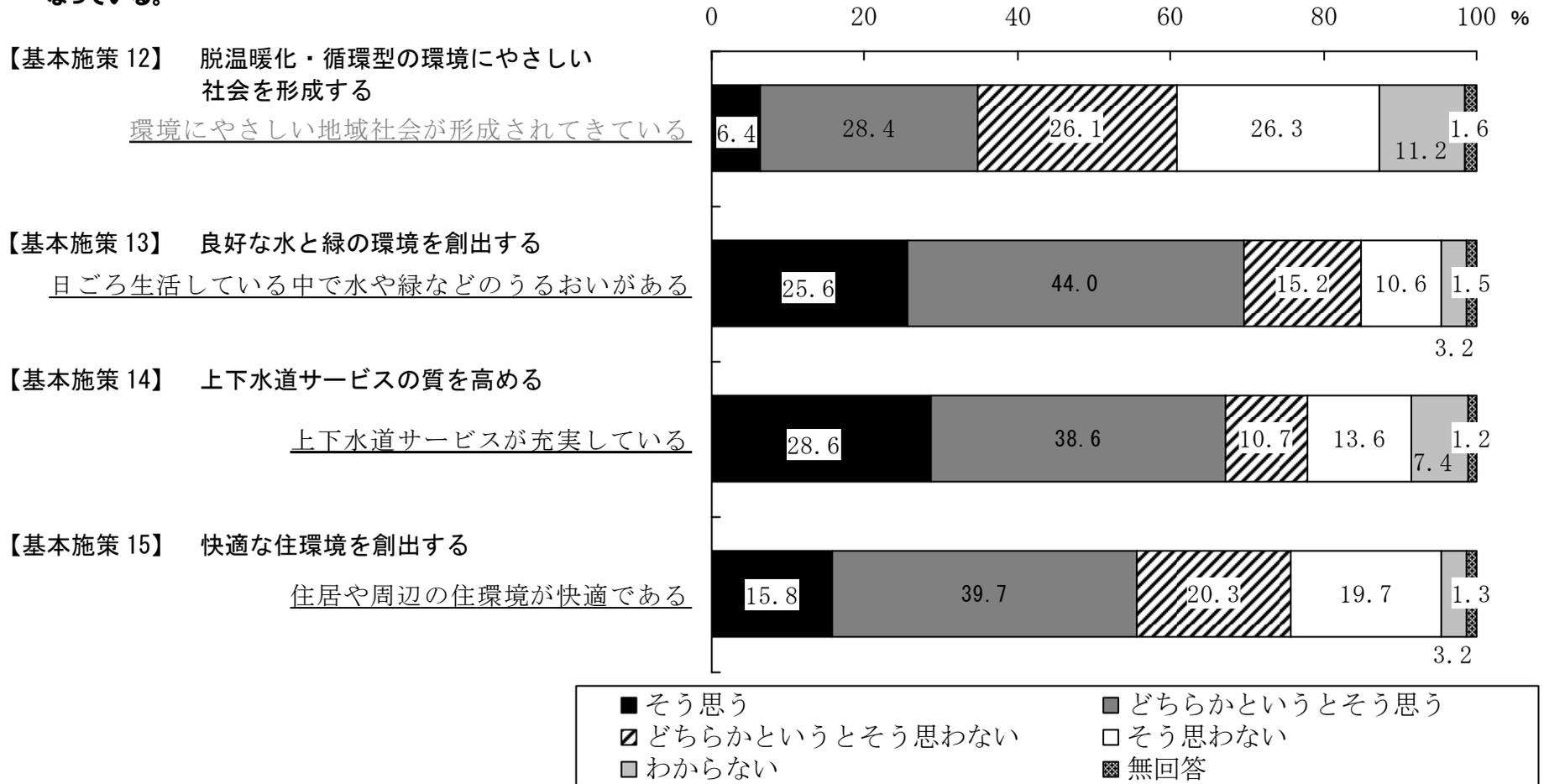
なお、“健全な青少年を育成する”の指標では、17.5%となっており、全指標中最も低くなっている。



(3) 生活環境に関する分野について

◆ 生活環境の分野については、他の分野と比べて「そう思う」、「どちらかというと思う」とする回答率の計が高くなっている。特に、“良好な水と緑の環境を創出する”の指標で69.6%と、全指標中最も割合が高くなっているほか、“上下水道サービスの質を高める”、“快適な住環境を創出する”の指標でも50%を超え、高くなっている。

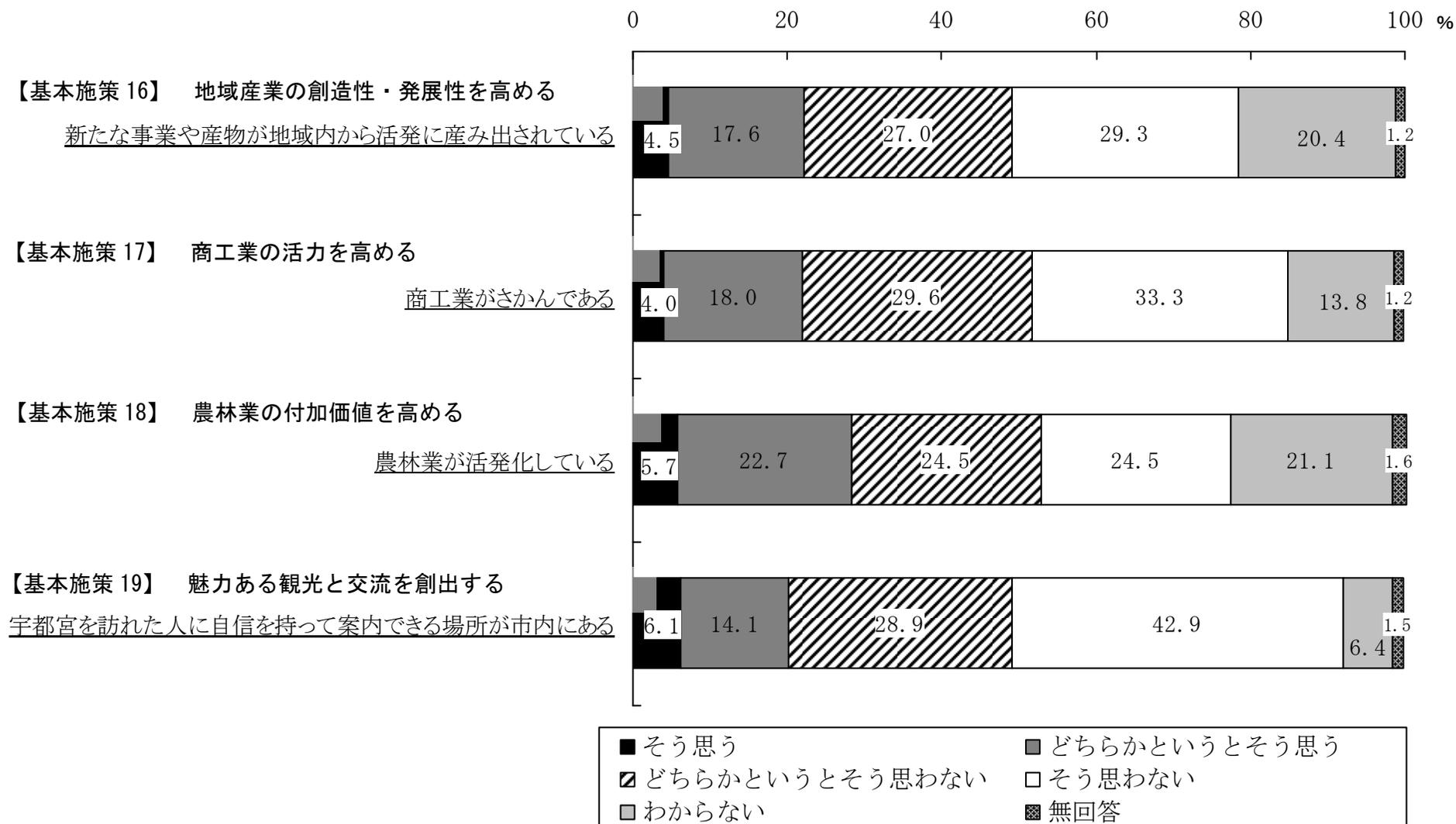
なお、まちづくりの重点課題である『環境調和型社会の構築』に関連する“脱温暖化・循環型の環境にやさしい社会を形成する”の指標では、34.8%となっている。



(4) 産業・経済に関する分野について

◆ 産業・経済の分野については、「そう思う」,「どちらかというと思う」とする回答率の計が、他の分野と比べて低く、特に“魅力ある観光と交流を創出する”では20.2%となっている。

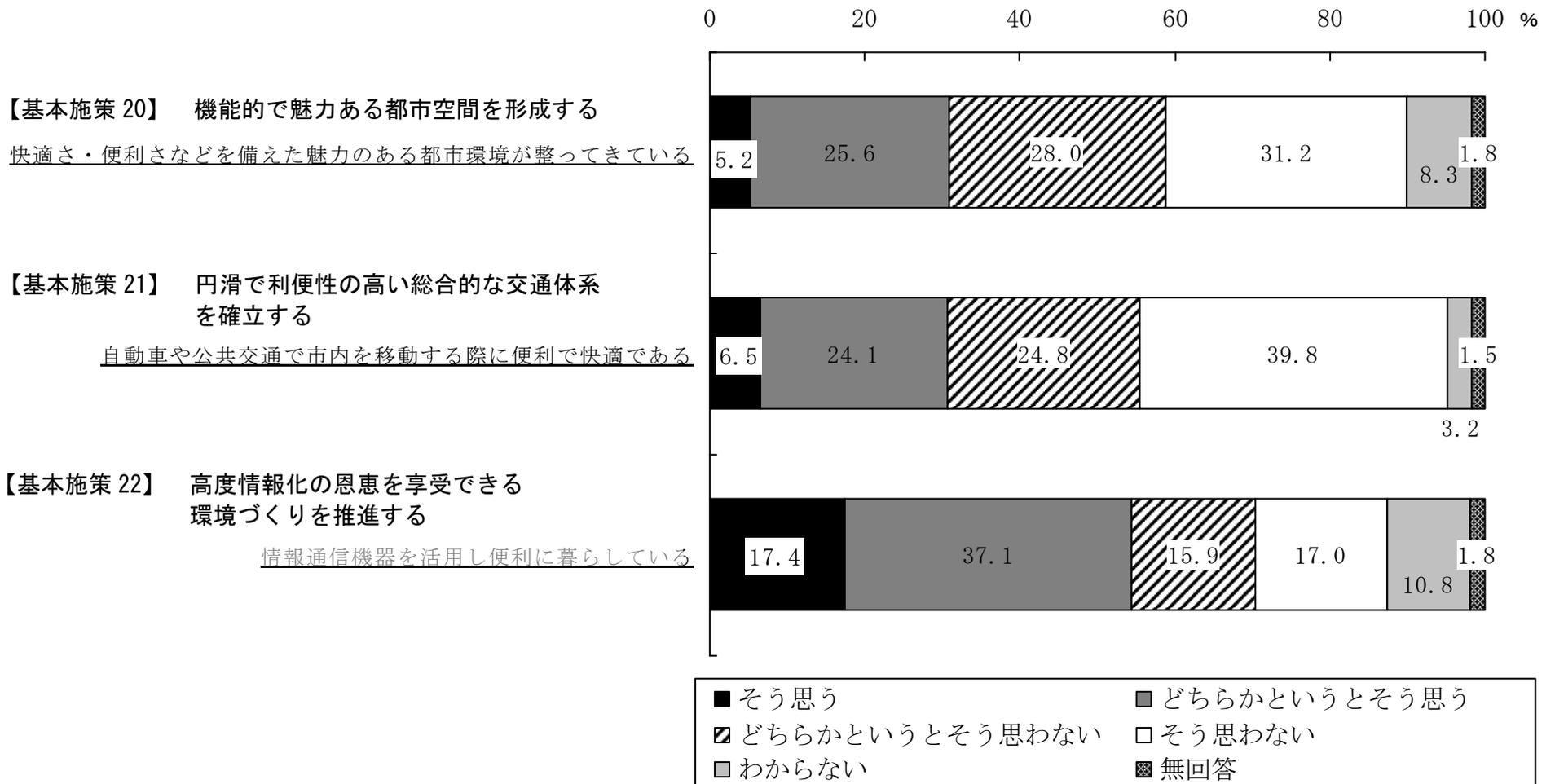
また、まちづくりの重点課題である『産業力の強化』に関連する“地域産業の創造性・発展性を高める”, “商工業の活力を高める”, “農林業の付加価値を高める”の各指標についても、20%台となっている。



(5) 都市基盤に関する分野について

◆ 都市基盤の分野については、まちづくりの重点課題である『魅力ある拠点の創造』、『公共交通ネットワークの充実』にそれぞれ関連する“機能的で魅力ある都市空間を形成する”，“円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する”の各指標で、「そう思う」、「どちらかというと思う」とする回答率の計が約30%となっている。

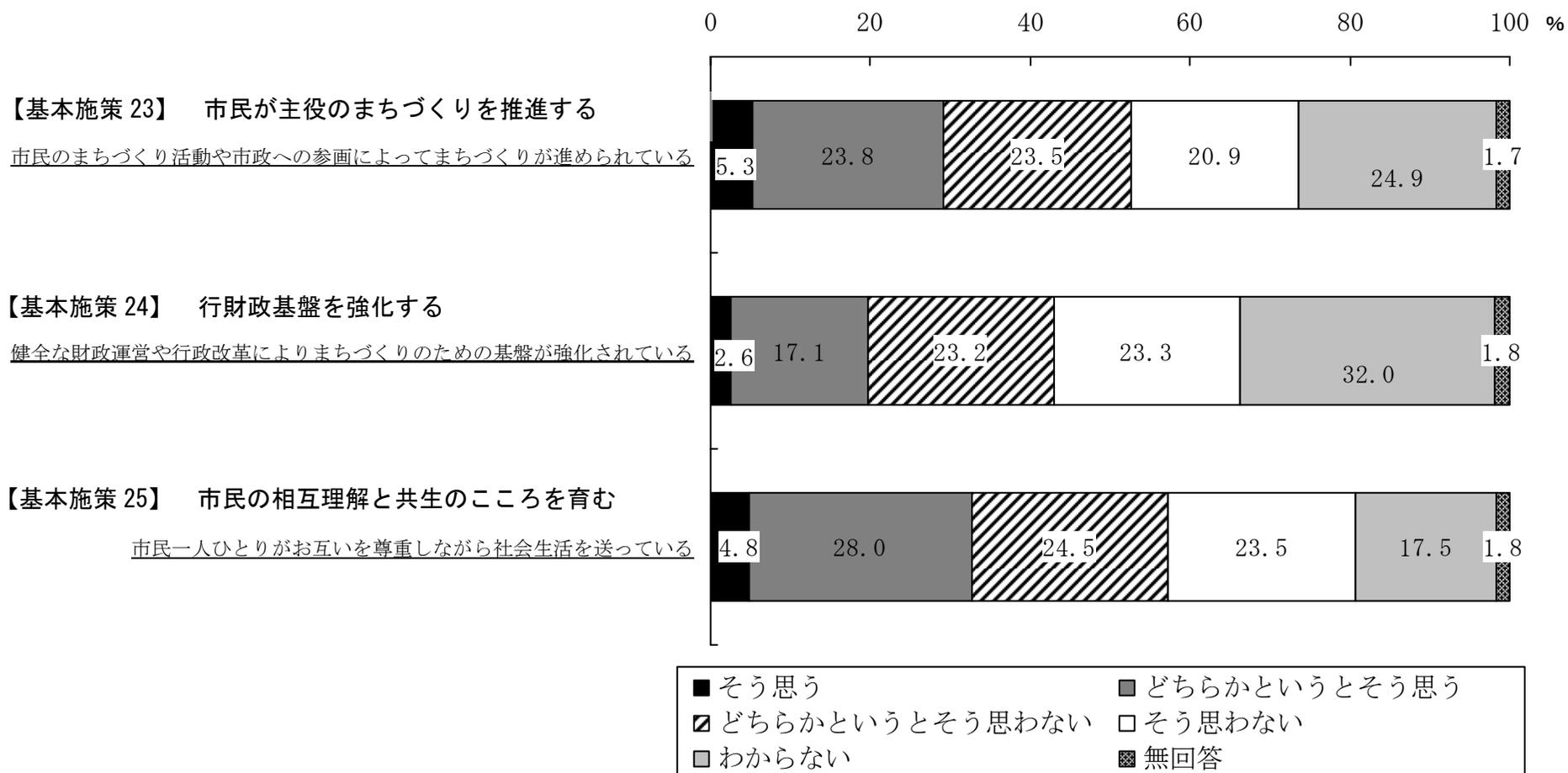
なお，“高度情報化の恩恵を享受できる環境づくりを推進する”の指標では、54.5%となっており、高くなっている。



(6) 都市経営・自治に関する分野について

◆ 都市経営・自治の分野については、まちづくりの重点課題である『地域が主体となったまちづくり』に関連する“市民が主役のまちづくり”の指標で、「そう思う」、「どちらかというと思う」とする回答率の計が29.1%となっている。

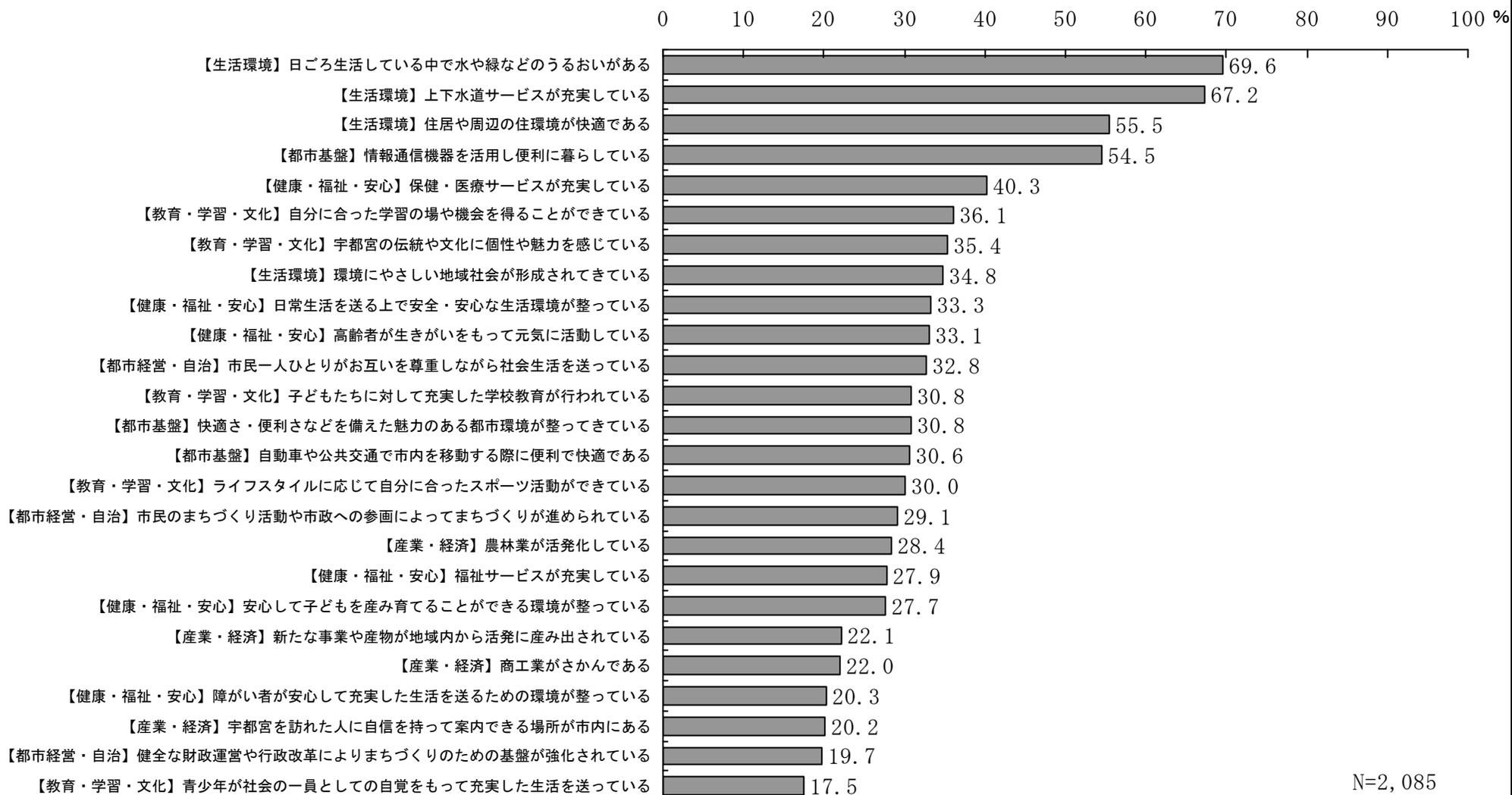
なお、“行財政基盤を強化する”の指標では19.7%と低くなっている一方、「わからない」とする回答率は32.0%となっている。



(7) 市民の実感（満足度）の高さ（「そう思う」・「どちらかというと思う」の合計を比較）

◆ 生活環境分野の指標が上位にきており、満足度が高くなっている。特に、“日ごろ生活している中で水や緑などのうるおいがある”と“上下水道サービスが充実している”の質問に対して、「そう思う」、「どちらかというと思う」とする回答率の計が約70%と高くなっている。

一方で、教育・学習・文化分野の“健全な青少年を育成する”と、都市経営・自治分野の“行政経営基盤を強化する”の指標では10%台と低くなっている。



N=2,085

(8) 市民の実感（満足度）の低さ（「そう思わない」・「どちらかというと思わない」の合計を比較）

◆ 産業・経済分野の“宇都宮を訪れた人に自身を持って案内できる場所が市内にある”の質問に対して、70%を超えているほか、都市基盤分野の“自動車や公共交通で市内を移動する際に便利で快適である”などの質問で60%を超えており、満足度が低くなっている。

